

令和7年度

朝霞市シティ・プロモーションアンケート
実施報告書

令和8年4月

I 調査概要

1-1 目的	1
1-2 現状と課題	1
1-3 設問内容	1
1-4 調査結果	2
1-5 調査結果の分析	3
1-6 報告書内の数字の表記について	3

II 調査結果

2-1 回答者の属性（設問：1～7）	4
2-2 調査結果概要（設問：8～28）	7
2-2-1 定住の意向	7
2-2-2 地域への愛着度	8
2-2-3 他者へのお勧め度	8
2-2-4 普段利用しているSNSツール	9
2-2-5 地域情報の入手方法かけ	9
2-2-6 自治体からの情報発信に求めているもの	10
2-2-7 自治体からの情報がどの程度届いているか	10
2-2-8 自治体からの情報をより入手しやすくなる方法	11
2-2-9 地域情報の収集意欲	11
2-2-10 積極的に入手している地域の情報	12
2-2-11 地域活動に参加したきっかけ	12
2-2-12 事前に適切な情報を入手した場合の地域活動への参加意欲	13
2-2-13 日常における地域とのつながり	13

2-2-14 休日の地域内での過ごし方	14
2-2-15 休日の理想の過ごし方	14
2-2-16 参加したことのあるイベントのジャンル	15
2-2-17 今後参加したいイベントのジャンル	15
2-2-18 市のプロモーション展開として知っているもの	16
新設) 市民プロモーションミーティングを知っているか	17
新設) 市民プロモーションミーティングが作成した成果物について	17
2-2-19 市制施行60周年記念事業の企画(自由記入)	18

Ⅲ 重点分析(地域とのつながりの有無に基づくクロス分析)

3-1 重点分析の概要	19
3-2 地域活動や催しへの参加意欲(11段階評価・傾向分析)	20
3-3 地域活動への参加実績	21
3-4 情報収集意欲(11段階評価・傾向分析)	22
3-5 積極的に入手している地域の情報	23
3-6 地域情報の入手方法	24
3-7 自治体からの情報発信に求めているもの	25
3-8 情報・魅力の発信力(11段階評価・傾向分析)	26
3-9 情報発信の方向性(11段階評価・傾向分析)	27

I 調査概要

1-1 目的

令和4年3月、朝霞に暮らす人や暮らしそのものに目を向け、新たな視点で魅力を発見、創造し、広く市内外へ発信していくために「朝霞市シティ・プロモーション方針」を策定しました。令和4年度には市への愛着などの基礎データを得るために、アンケート調査を実施した。

令和7年度までの約3年間、シティ・プロモーション方針に基づきプロモーションを推進してきた効果が、どれくらい市民に魅力が浸透し、愛着が醸成されているか、また、その結果による課題を抽出し分析するためにアンケートを実施した。

1-2 現状と課題

埼玉県内において人口は減少しているものの、本市の人口は微増ながら増え続けている。また、朝霞を代表するイベント朝霞市民まつり「彩夏祭」や「ASAKA STREET TERRACE」、「あさか冬のあかりテラス」などでは、地域で活躍する方が多数存在し、こうした市民の参画するイベントが継続的に実施・盛り上がりを見せていることから地域の担い手や関わりも増えている状況と推察される。

このような中、本市を選んだ方、地域で活躍している方、何か地域で参加することについて一歩前進したい方など、市民が何を求めているのか、シティ・プロモーションの視点で行動に移しやすい環境を整備していくことが課題となっています。

1-3 設問内容

このアンケート調査を通じ、市の情報や魅力といった地域情報はどれだけ市民に届いているかなどを数値化し、より本市の特性に沿ったシティ・プロモーションを推進していくための資料とする。

- ①市の情報や魅力が市民に伝わっているか（魅力発信力）
- ②地域情報を収集する意欲があるか（情報収集意欲）
- ③地域へ参加する意欲があるか（参加意欲）
- ④自ら企画・運営し魅力を広げようとする意欲があるか（企画・行動力）

【アンケート項目】

- (1～ 7) 回答者の属性
- (8～ 10) 現在お住まいの地域への愛着度、お勧め度
- (11～12) 地域情報の入手方法
- (13～15) 自治体からの情報発信に求めているもの
- (16～17) 地域情報の収集意欲

- (18) 地域活動への参加のきっかけ
- (19) 情報を事前に入手した場合の地域活動への参加意欲
- (20) 日常生活における地域とのつながり
- (21) 休日の地域内での過ごし方
- (22) 休日の理想の過ごし方
- (23～24) これまでに参加した・今後参加したいイベントのジャンル
- (25～27) 市のシティ・プロモーション展開として知っているもの
- (28) 市制施行60周年記念事業の企画（自由記入）

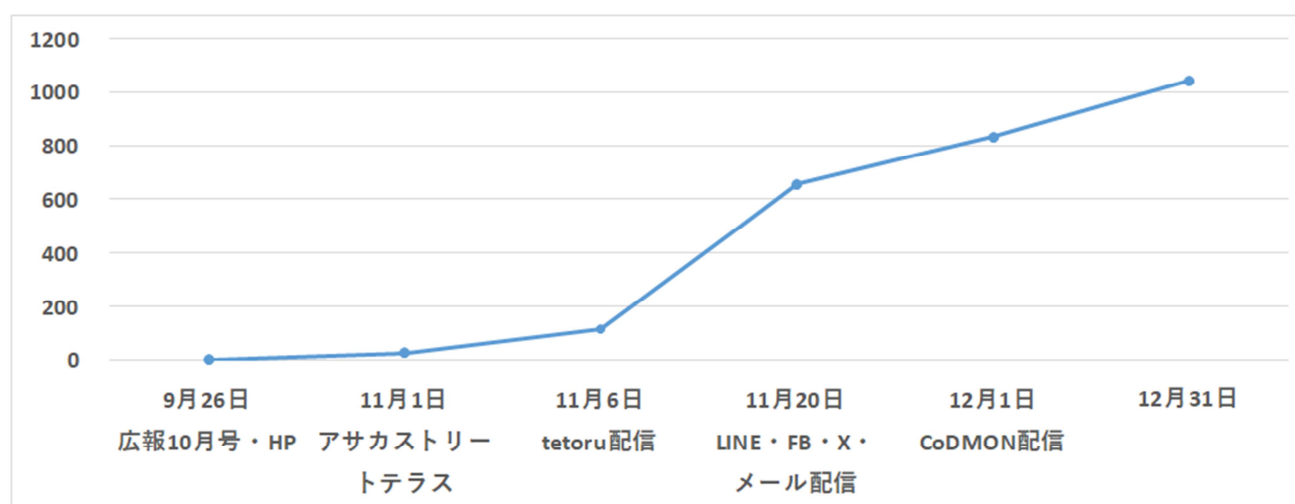
1-4 調査結果

本調査は、多様な媒体に二次元コードを付して行う、電子申請アンケートで実施した。また、紙媒体での回答も可とした。

調査地域 朝霞市全域
 調査対象 朝霞市在住及び近隣市町村等の住民
 回答数 1,045 件
 調査期間 令和7年9月26日～令和7年12月31日
 調査方法 電子申請アンケートを作成し、WEB 回答・紙媒体

日付	配付方法	配付・登録者数
9月26日	広報10月号、HP	70,200 世帯
11月1日	アサカストリートテラス	100 人
11月6日	小・中学校 tetoru 配信	11,226 人
11月20日	LINE,Facebook,X,メール配信	LINE 7,123 人、Facebook 2,857 人、X 15,217 人、メール配信 5,950 人
12月1日	公設保育園 CoDMON 配信	850 人

〔回答状況推移〕



1-5 調査結果の分析

本調査は、「1-2 設問内容」に記載の項目を具体的に数値化するため、アンケート項目を設計した。重点分析として、設問 20 における「地域とのつながり」への回答を基準として情報・魅力発信力、情報収集意欲、参加意欲の「現在地」について、重点的に分析を行った。

1-6 報告書内の数字の表記について

- ①本調査は、アンケートの設問内容に応じた回答の選択肢として、単一回答及び複数回答を採用したため、有効回答者数 1,045 人に対して回答数が一致しない設問がある。
- ②割合に関しては 100 分率で、小数点以下第 2 位を四捨五入したため、合計が 100%にならない場合がある。
- ③11 段階評価の回答では、朝霞市独自の分析基準として以下のとおり分類した。
 - 「0～ 3 低い層」
 - 「4～ 6 中間層」
 - 「7～10 高い層」

Ⅱ 調査結果

2-1 回答者の属性（設問：1～7）

回答総数は1,045件、男女比は、男性24.6%、女性73.3%
選択しない2.1%の割合となった。

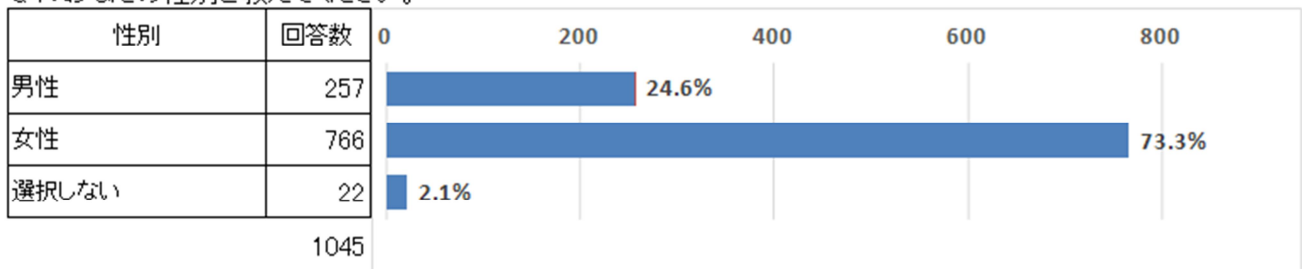
年代別回答数では、40代が全体の約45%を占め、30代、50代と続いています。
30代から50代までは全体の90%を占めている。

家族構成では、配偶者・パートナーと未就学児から中学生までの子と同居している世帯構
成が多く、子育て世代が中心となった回答であった。

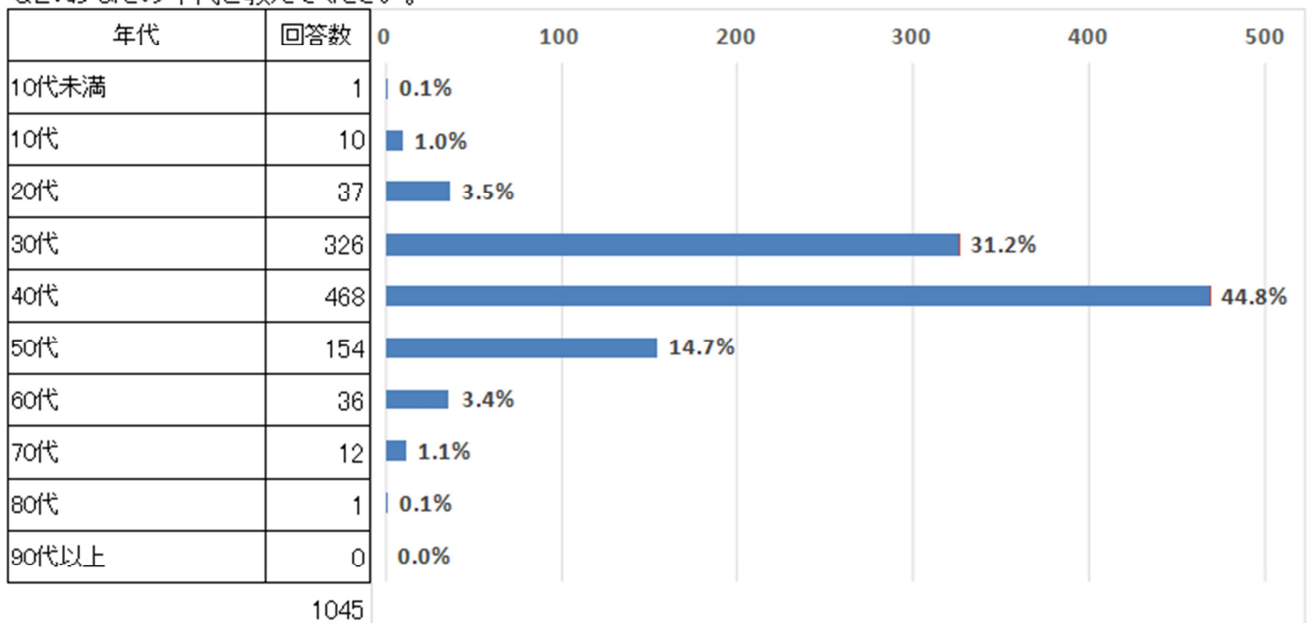
職業では、令和4年に実施したアンケートと同様、「会社員・公務員・団体職員」で55.
4%、「パート・アルバイト」で21.5%、「専業主夫・専業主婦」で10.9%と続いた。

居住地域では、「朝霞市在住者」で94.2%、居住期間として、10年以上が55%と、
市内で長く居住している人が多かった。

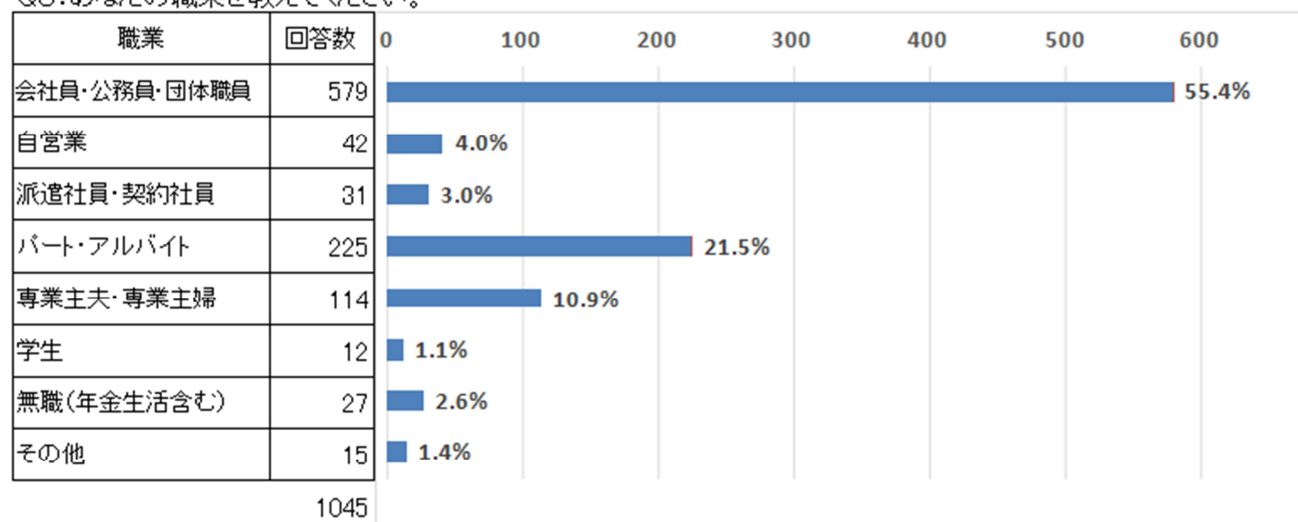
Q1:あなたの性別を教えてください。



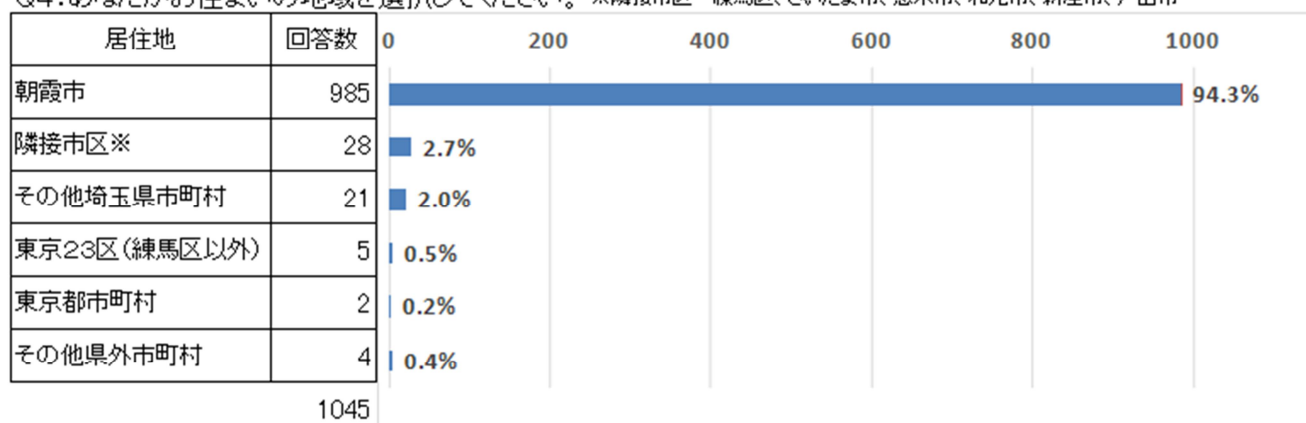
Q2:あなたの年代を教えてください。



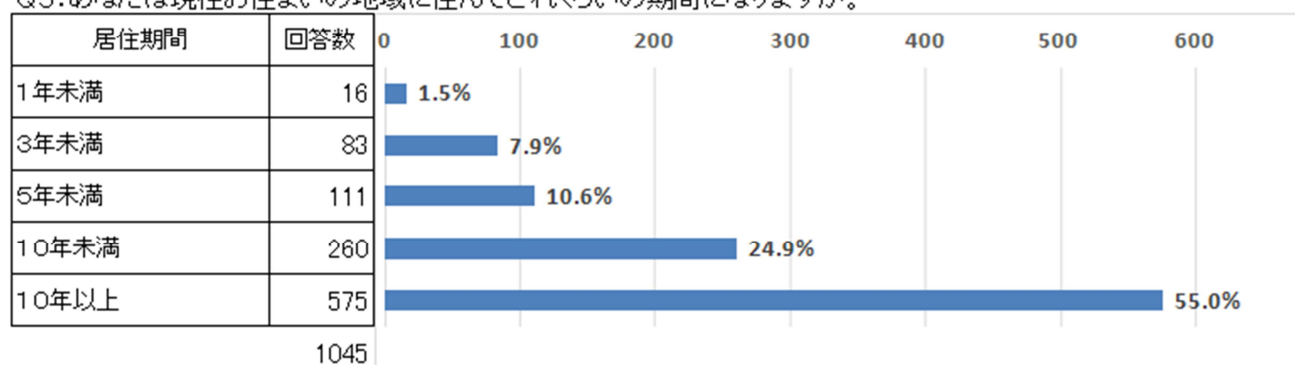
Q3:あなたの職業を教えてください。



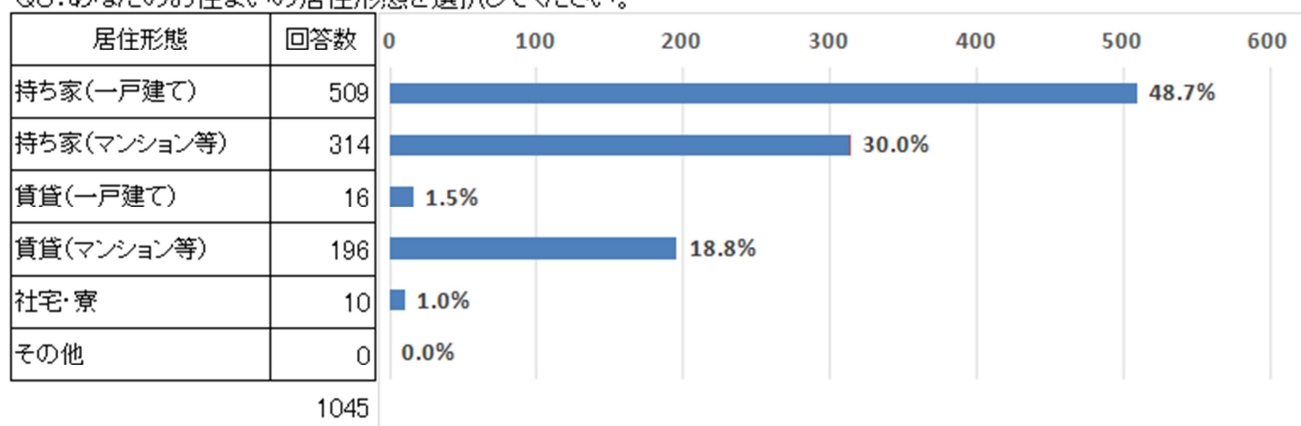
Q4:あなたが住まいの地域を選択してください。※隣接市区…練馬区、さいたま市、志木市、和光市、新座市、戸田市



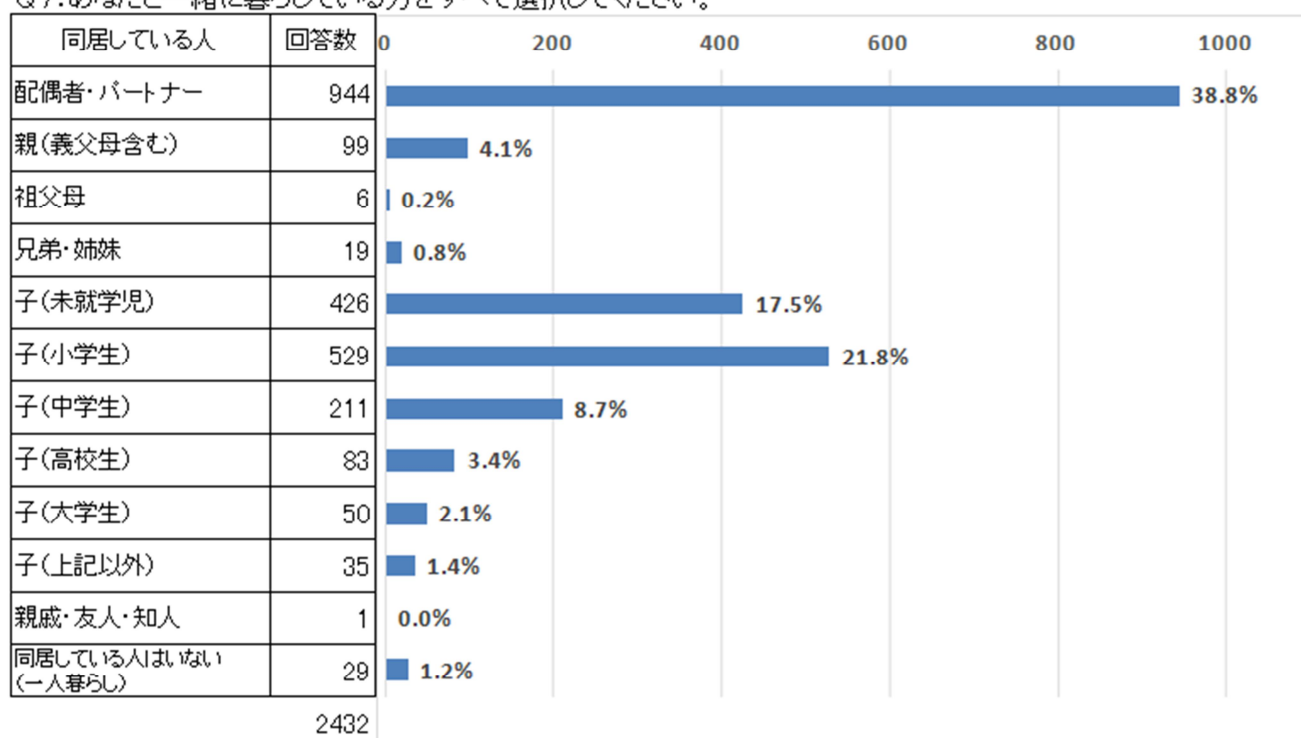
Q5:あなたは現在お住まいの地域に住んでどれくらいの期間になりますか。



Q6:あなたのお住まいの居住形態を選択してください。



Q7:あなたと一緒に暮らしている方をすべて選択してください。



2-2 調査結果概要（設問：8～28）

令和4年度に策定した「朝霞市シティ・プロモーション方針」を軸にプロモーションを推進してきた情報がどの程度市民に伝達し、浸透されているか確認するため、令和4年度に行ったアンケートと同じ設問項目で調査を実施した。

設問意図は、市の魅力が市民に伝わっているか（魅力発信力）、市民自らが市の魅力を収集し、情報発信しようとする意欲があるか（情報収集・発信意欲）、収集した情報から、自らが進んで地域イベント等への参加する意欲があるか（参加意欲）、自ら企画・運営し、朝霞の魅力を広げようとする意欲があるか（企画・行動力）についての調査を行った。

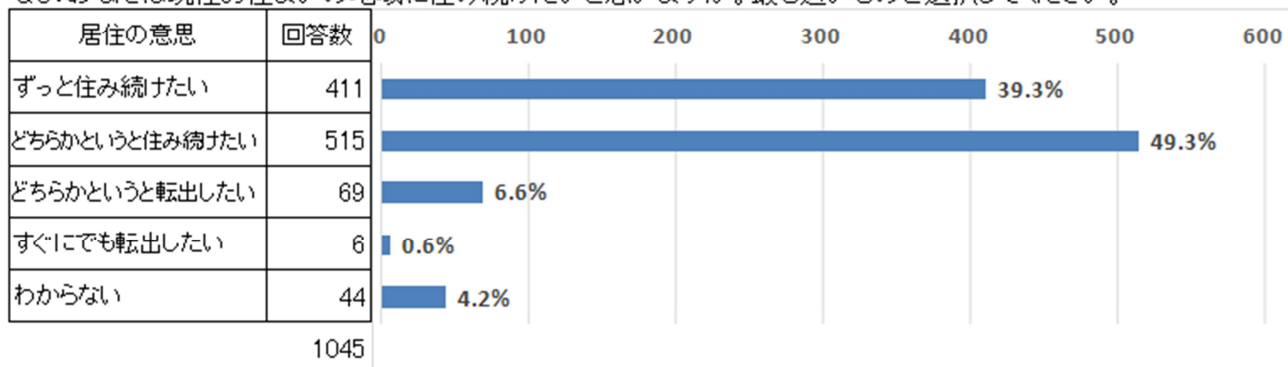
また、令和9年3月15日に市制施行60周年を迎えるにあたり、このアンケートに「60周年記念事業について、あなただったらどんな企画を考えますか」という自由記入欄の設問を取り入れました。

2-2-1 定住の意向

設問8 「住み続けたいか」の回答では、「ずっと住み続けたい」「どちらかというに住み続けたい」を合わせると88.6%となり、定住の促進という観点では、朝霞の魅力が伝わり、暮らしやすい環境下であることがわかった。

これを継続していくために、人それぞれにとっての「最高の日常」を見つけるヒントを、市民の目線で朝霞の魅力を情報発信していくことが今後も必要と考える。

Q8:あなたは現在お住まいの地域に住み続けたいと思いますか。最も近いものを選択してください。



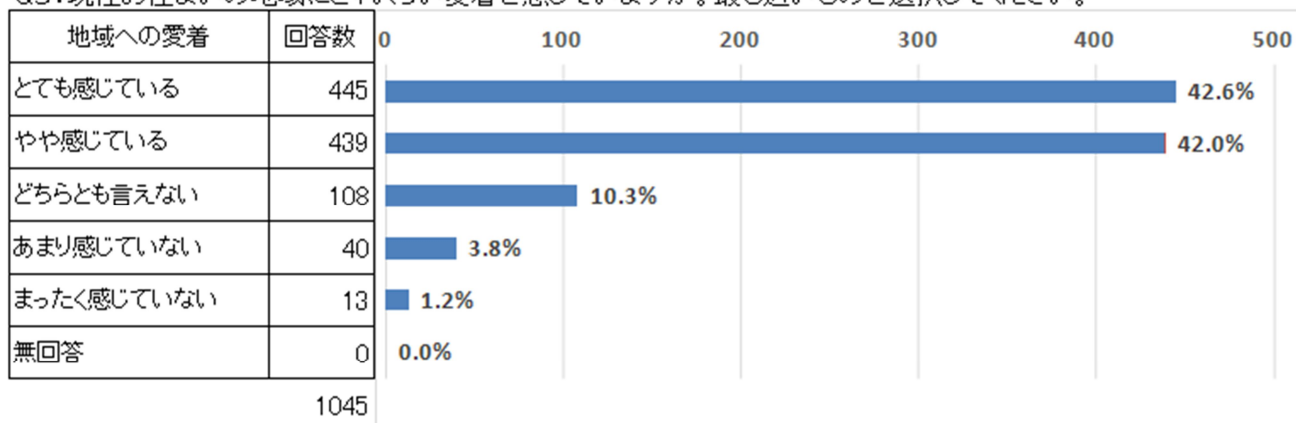
	令和4年度実施	令和7年度実施
ずっと住み続けたい	36.8%	38.3%
どちらかというに住み続けたい	49.0%	49.3%
どちらかというと転出したい	8.7%	6.6%
すぐにでも転出したい	1.1%	0.6%
わからない	4.4%	4.2%

2-2-2 地域への愛着度

(新設) 設問9 「愛着を感じているか」の回答では、「とても感じている」「やや感じている」を合わせると84.6%となり、日々の生活の中で愛着の醸成が図られ、定住の意向がうかがえる。

シティ・プロモーション方針にある定住の促進のために進めていく軸は、引き続き継続し、朝霞の日常にある魅力を発掘、深掘りしていく必要がある。

Q9:現在お住まいの地域にどれくらい愛着を感じていますか。最も近いものを選択してください。

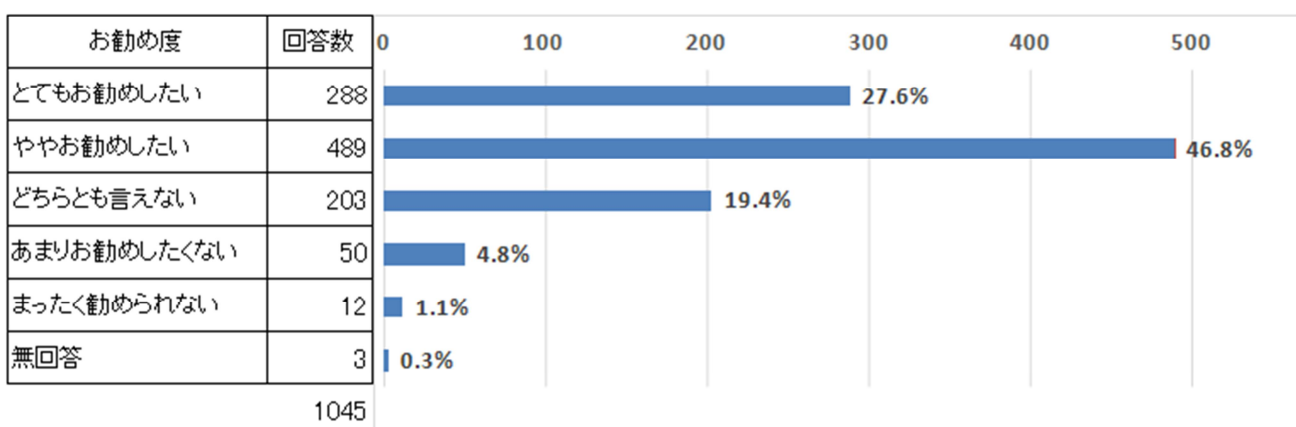


2-2-3 他者へのお勧め度

(新設) 設問10 「地域での暮らしを勧めたいか」の回答では、「とてもお勧めしたい」「ややお勧めしたい」を合わせると74.3%となり、自身の定住のみならず、他の方にもお勧めできる朝霞の魅力が市民の生活の中に備わってきていることがわかった。

シティ・プロモーションの方針として、主に市民に対して市の魅力を伝え、それが、市外の方へも繋がっていく取り組みを進めており、市民の目線での朝霞の魅力を市民の言葉で情報発信する大切なことを再認識し、市民のコミュニティをさらに構築していくことが必要である。

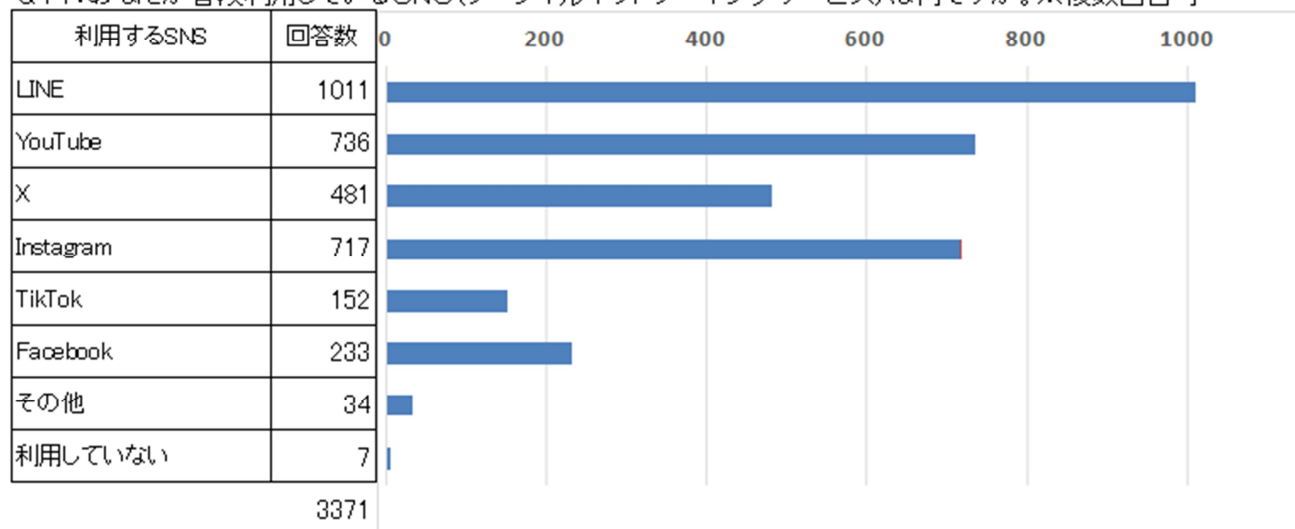
Q10:現在お住まいの地域での暮らしを、他の方にとどれくらいお勧めできますか



2-2-4 普段利用しているSNSツール

(新設) 設問11 「普段利用しているSNSは何ですか」の回答では、LINE、YouTube、インスタグラムなどといった主要なSNSを利用している割合が非常に高いことから、引き続きこういった媒体の活用及びメディア等への活用を創意工夫しながら情報発信していくことが求められている。

Q11:あなたが普段利用しているSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)は何ですか。※複数回答可

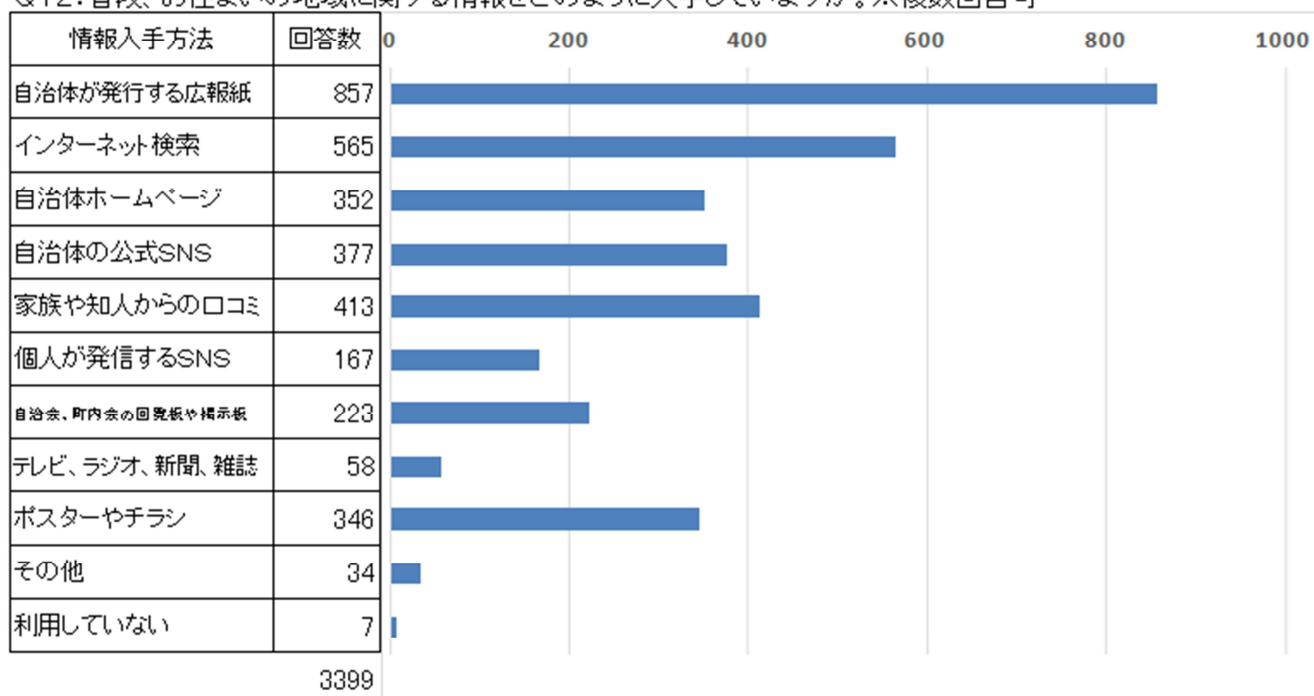


2-2-5 地域情報の入手方法

設問12 「情報をどのように入手しているか」の回答では、自治体が発行する広報紙が群を抜いて多く、次いでインターネット検索、口コミ、施設や掲示板に掲示されるポスターやチラシとなっている。

この結果から、今後も広報紙はもちろんのこと、複数の方法により、誰も取り残されないように情報が届くよう効果的かつ工夫した情報の発信が求められている。

Q12:普段、お住まいの地域に関する情報をどのように入手していますか。※複数回答可

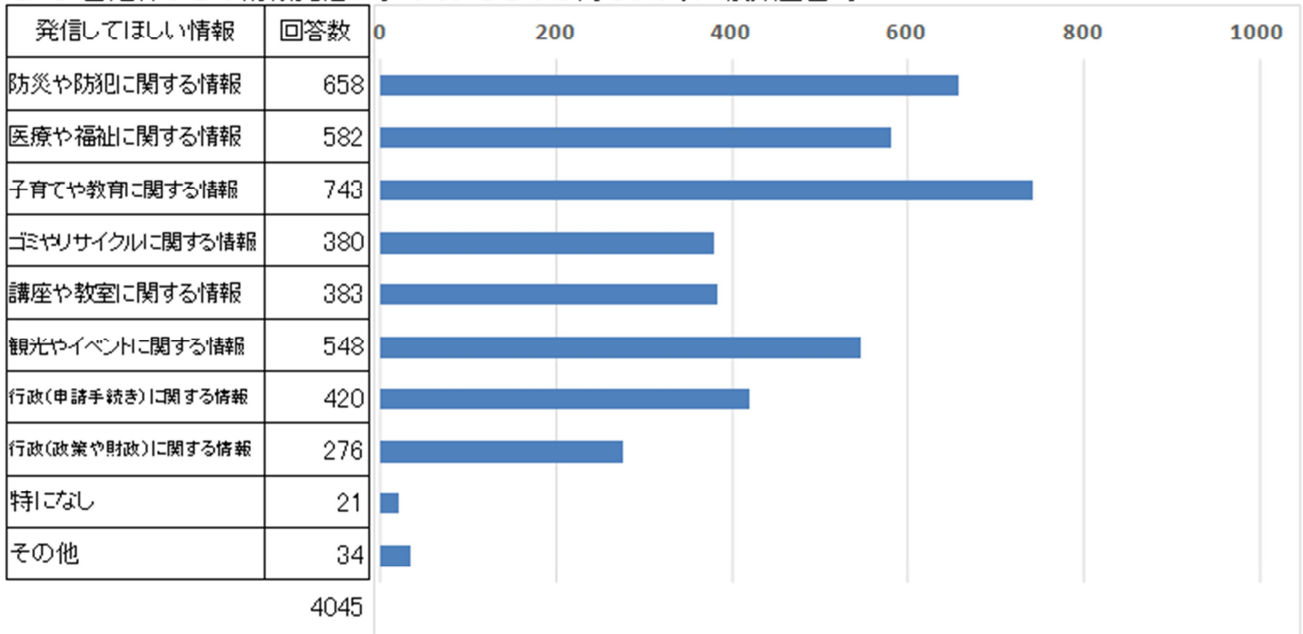


2-2-6 自治体からの情報発信に求めているもの

設問13 「自治体からの情報発信に求めているものは」の回答では、子育てや教育に関する情報、防災や防犯に関する情報、医療や福祉に関する情報を市民が求めていることがわかる。本市は、比較的若い市であることからこのような結果が出ているものと考えられる。

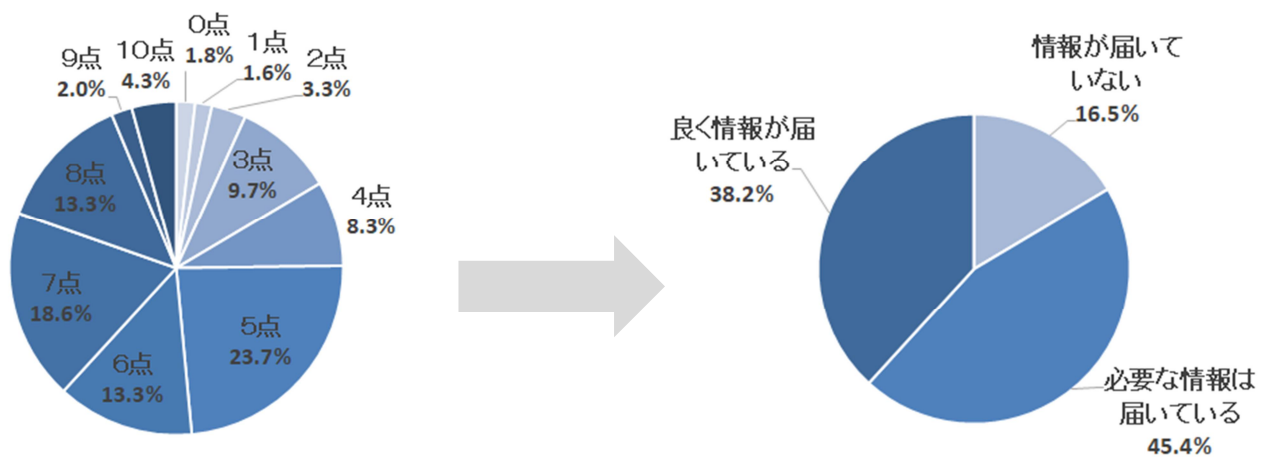
令和4年に実施したアンケートでは、防災や防犯に関する情報が一番多くあった。

Q13:自治体からの情報発信に求めているものは何ですか。※複数回答可



2-2-7 自治体からの情報がどの程度届いているか

設問14 「自治体からの情報がどの程度届いているか」の回答では、令和4年に実施したアンケートと比較すると「良く情報が届いている層(7~10)、必要な情報は届いている(4~6)、全く届いていない(0~3)の割合は、ほぼ同程度であった。



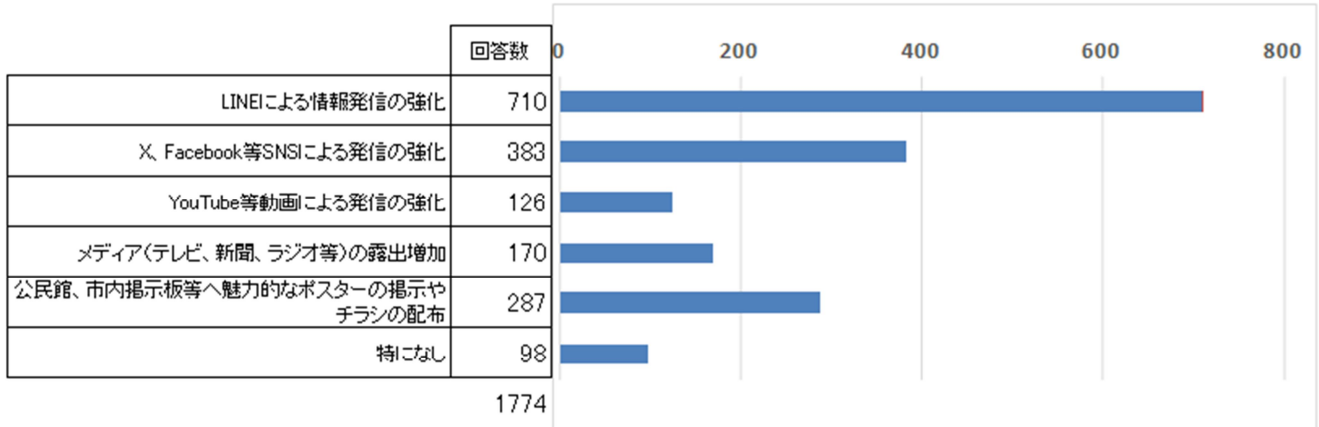
	令和4年度実施	令和7年度実施
良く情報が届いている	38.0%	38.2%
必要な情報は届いている	47.1%	45.4%
全く届いていない	14.9%	16.5%

2-2-8 自治体からの情報をより入手しやすくなる方法

設問15 「情報をより入手しやすくなる方法」の回答では、令和4年に実施したアンケートと同様に、SNSでの情報発信強化を求める回答が多く、その中でも、利用者の多いLINEでの情報発信の強化が一番望まれている。次いで、X・Facebook等SNSであった。また、各施設や掲示板でのポスター・チラシによる情報の入手先として、望まれている。

引き続き、情報が届く手段を創意工夫しプロモーションを実施していく。

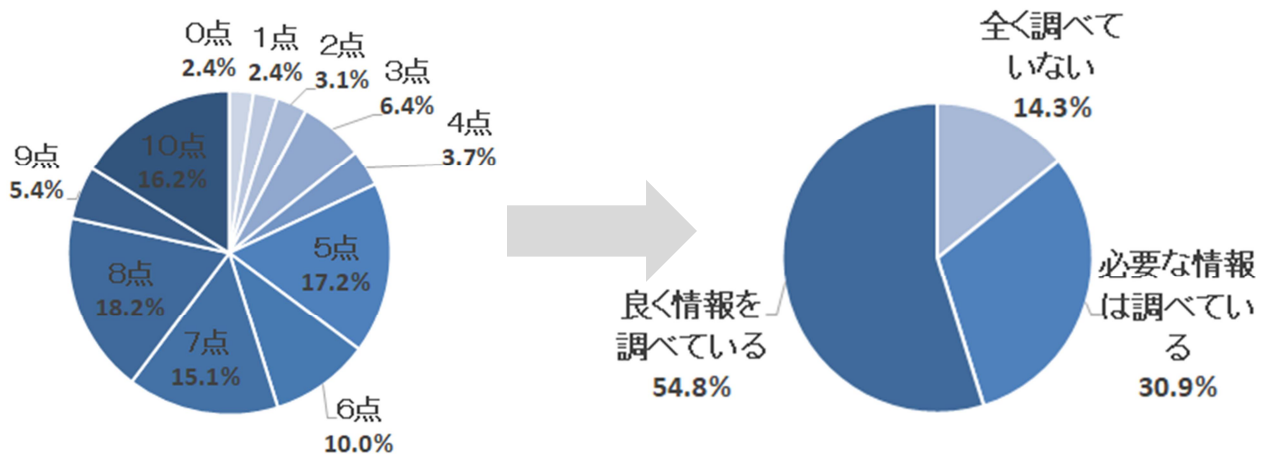
Q15:Q13で選択した内容を、あなたがより入手しやすくなるものは何ですか。※複数回答可



2-2-9 地域情報の収集意欲

設問16 「普段の生活の中で地域情報を自ら調べたことはあるか」の回答では、令和4年に実施したアンケートと比較すると、「良く情報を調べている(7~10)、必要な情報は調べている(4~6)、全く調べていない(0~3)の割合は、ほぼ同程度であった。

市民それぞれの置かれている生活環境によって、必要な情報を自ら調べることができる環境下にある方が多いと考える。そのため、情報発信者は、求められている情報が見やすく、端的で、分かりやすい情報発信に留意する必要がある。

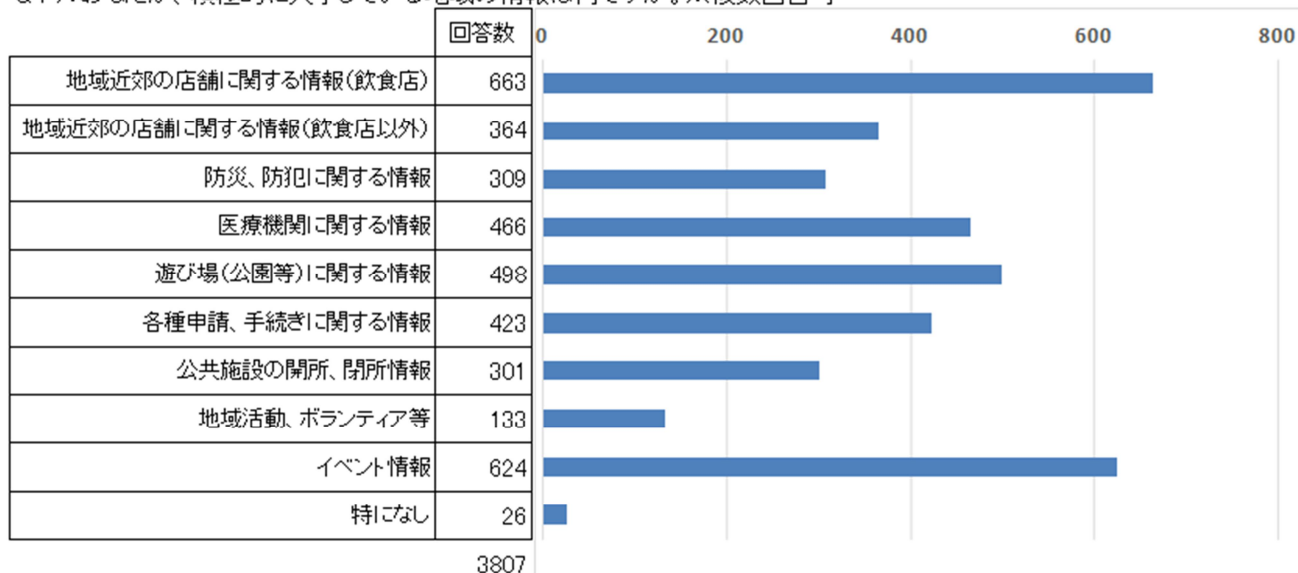


	令和4年度実施	令和7年度実施
良く調べている	56.7%	54.8%
必要な情報は調べている	30.6%	30.9%
全く調べていない	12.8%	14.3%

2-2-10 積極的に入手している地域の情報

設問17 「積極的に入手している情報は何か」の回答では、令和4年に実施したアンケートと比較すると、地域近郊の店舗に関する情報（飲食店）に次いで、イベント情報となっており、上位はほぼ同じ結果となっている。

Q17:あなたが、積極的に入手している地域の情報は何か。※複数回答可



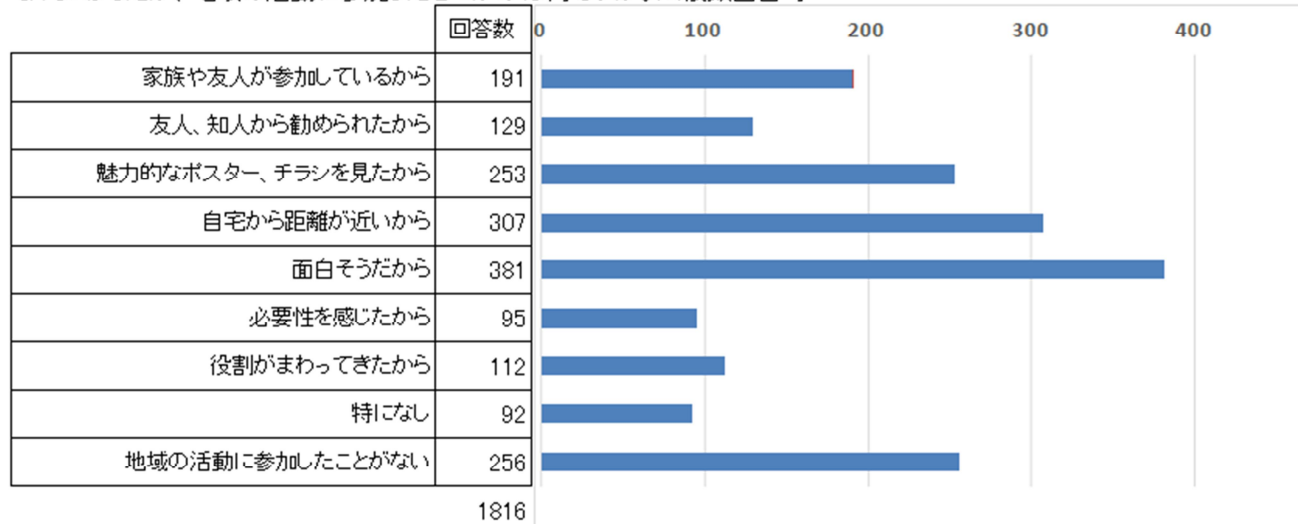
2-2-11 地域活動に参加したきっかけ

設問18 「地域の活動に参加した結果」の回答では、令和4年に実施したアンケート調査と比較すると、「面白そうだから」に次いで「自宅から距離が近いから」「魅力的なポスター・チラシを見たから」が上位で同じ結果であった。

変化した点では「地域の活動に参加したことがない」の割合が、令和4年の21.7%から14.1%になり約7ポイント下がり、何かしら地域の活動に参加した方が増えていることがわかった。

結果から見えるものは、近隣で面白そうな活動は、適切なタイミングで情報発信することで、参加する人が増えていくことが想定される。

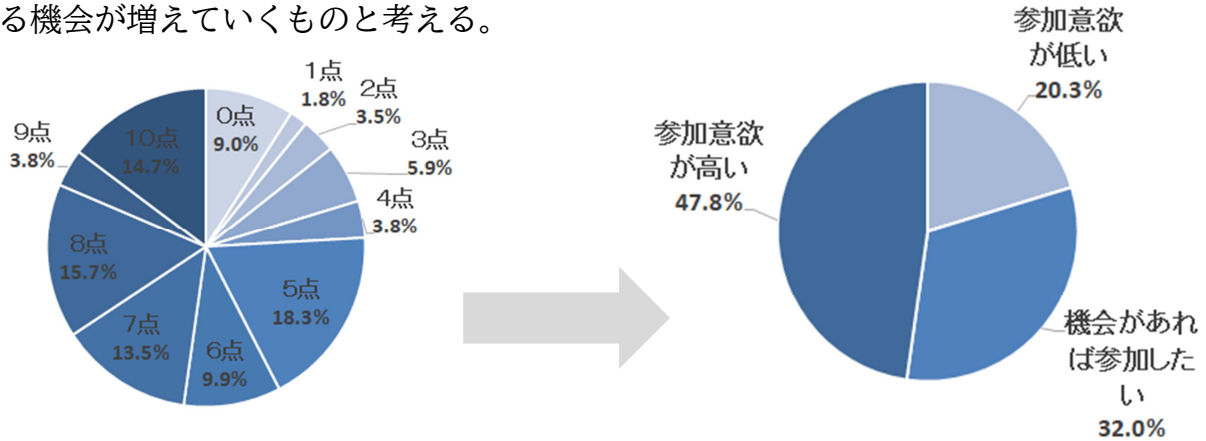
Q18:あなたが、地域の活動に参加したきっかけは何ですか。※複数回答可



2-2-12 事前に適切な情報を入手した場合の地域活動への参加意欲

設問19 「地域の活動や催しを事前に知ることができたら、参加する機会が増えるか」の回答では、令和4年に実施したアンケート調査と比較すると、「参加意欲が高い層（7～10）、機会があれば参加したい層（4～6）、参加意欲が低い層（0～3）の割合は、ほぼ同程度であった。

参加意欲が高い層と機会があれば参加したい層を合わせると80%（令和7年調査）いることから、事前に情報を適切なタイミングで情報発信することで、市民が地域の活動への参加する機会が増えていくものとする。



	令和4年度実施	令和7年度実施
参加意欲が高い層	43.5%	47.8%
機会があれば参加したい層	31.3%	32.0%
参加意欲が低い層	25.3%	20.3%

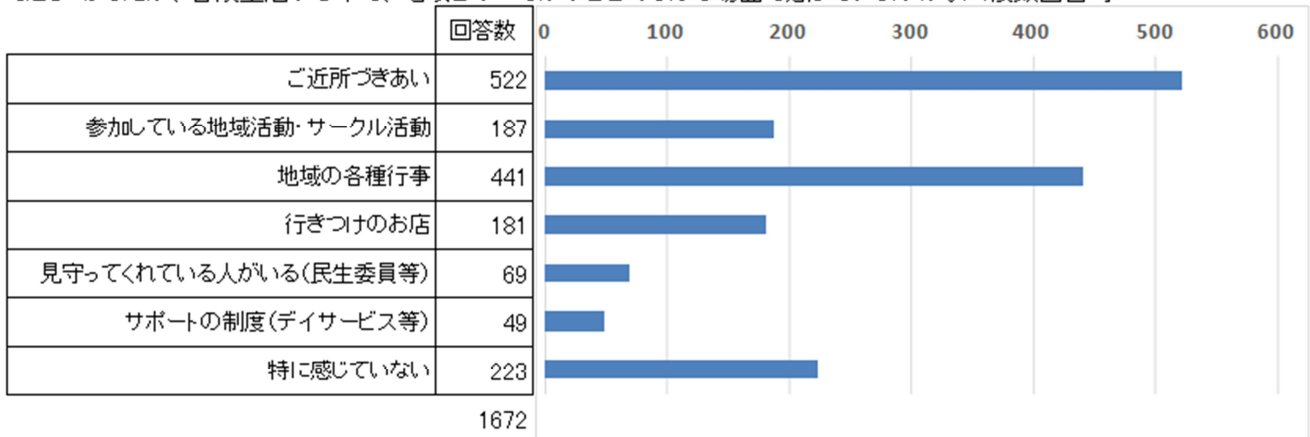
2-2-13 日常生活における地域とのつながり

設問20 「普段の生活の中で、地域とのつながりをどのような場面で感じますか」の回答では、令和4年に実施したアンケート調査と比較すると、ご近所づきあい、地域の各種行事、行きつけのお店、参加している地域活動・サークル活動が上位を占めており、同じような結果であった。

地域の各種活動は、令和4年に実施した21%から5ポイント伸び26%となった。

また、特に感じていないを回答された方は、3ポイント減り地域とのつながりを意識するような方が増えている傾向であった。

Q20:あなたが、普段生活する中で、地域とのつながりをどのような場面で感じていますか。※複数回答可

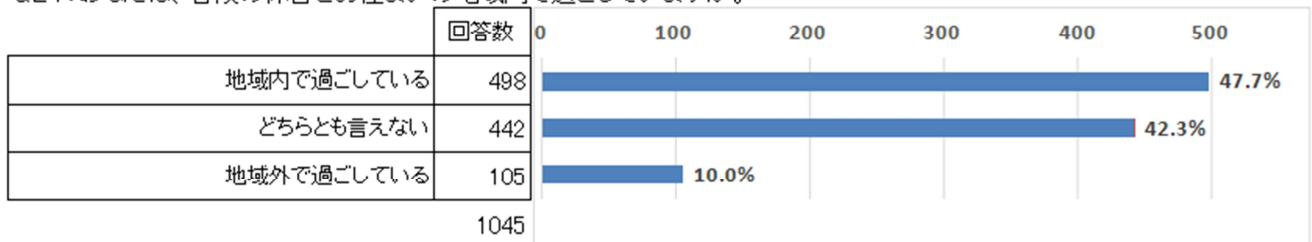


2-2-14 休日の地域内での過ごし方

設問2 1 「休日をお住まいの地域内で過ごしているか」の回答では、令和4年に実施したアンケート調査と同様に、約半数の方が休日を地域内で過ごしている状況であった。また、どちらとも言えないと回答した方も42.3%おり、居住地域内外をバランス良く過ごしている状況であった。

休日の過ごし方も人それぞれですが、市民で作る各種イベントが成長している事実もあるため、引き続き朝霞の魅力や朝霞での過ごし方を情報発信していくことが必要と考える。

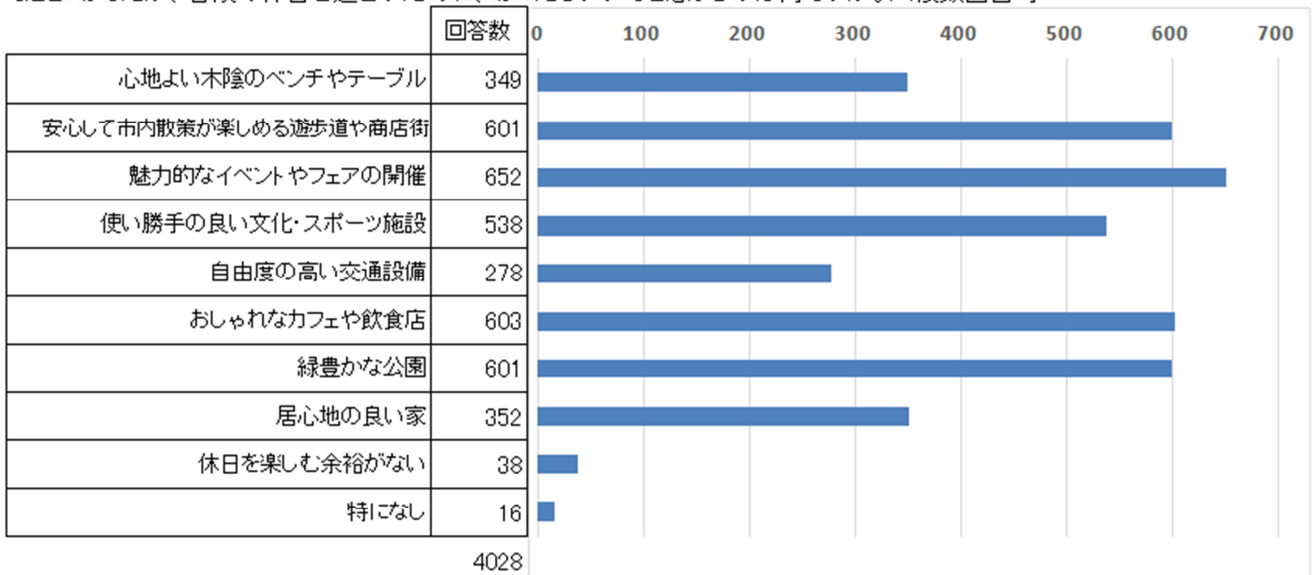
Q21:あなたは、普段の休日をお住まいの地域内で過ごしていますか。



2-2-15 休日の理想の過ごし方

設問2 2 「休日を過ごすために、あったらいいと思うものは」の回答では、令和4年に実施したアンケート調査と同様に、安心して市内散策が楽しめる遊歩道や商店街、魅力的なイベントやフェアの開催、使い勝手の良い文化・スポーツ施設、おしゃれなカフェや飲食店、緑豊かな公園を選択しており、今回の調査も同じ傾向であった。

Q22:あなたが、普段の休日を過ごすために、あったらいいと思うものは何ですか。※複数回答可

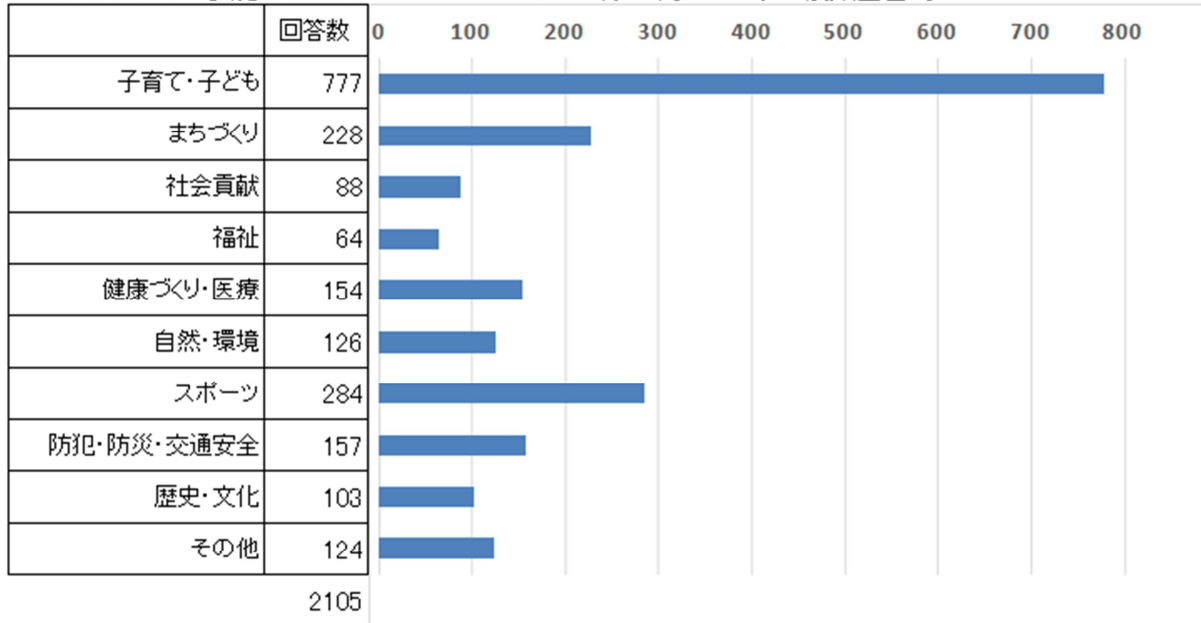


2-2-16 参加したことのあるイベントのジャンル

(新設) 設問23 「参加したことのあるイベントのジャンルは」の回答では、子育て・子どもに関するイベントへの参加が非常に高い傾向である。次いで、スポーツ、まちづくりに関心を持たれている様子がうかがえる。

人口減少の中、若い朝霞市においても、子育て・子どもに関するイベントを充実していくことが、選ばれていくまちとして大切な視点である。

Q23:これまでに参加したことのあるイベントのジャンルは何ですか。※複数回答可

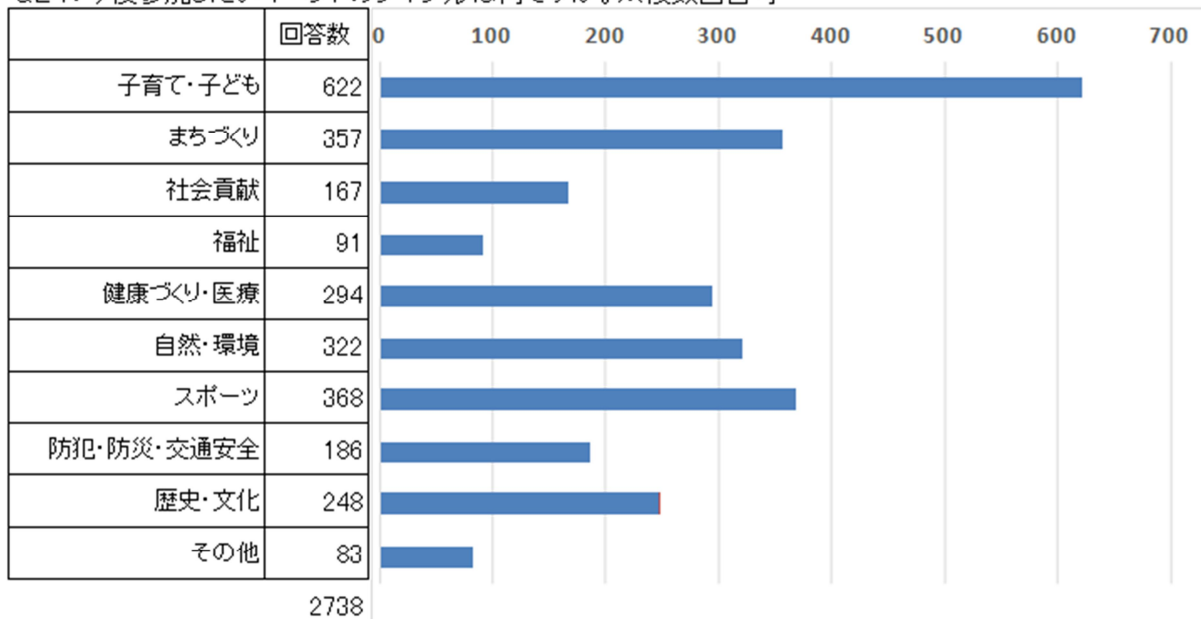


2-2-17 今後参加したいイベントのジャンル

(新設) 設問24 「今後参加したいイベントのジャンルは」の回答では、子育て・子ども、スポーツ、まちづくりと前問23と同じで、健康づくり・医療、自然・環境、歴史・文化について関心を持たれている様子がうかがえる。

この結果から、今後、市の施策に反映するための目安として考えていくことが必要である。

Q24:今後参加したいイベントのジャンルは何ですか。※複数回答可



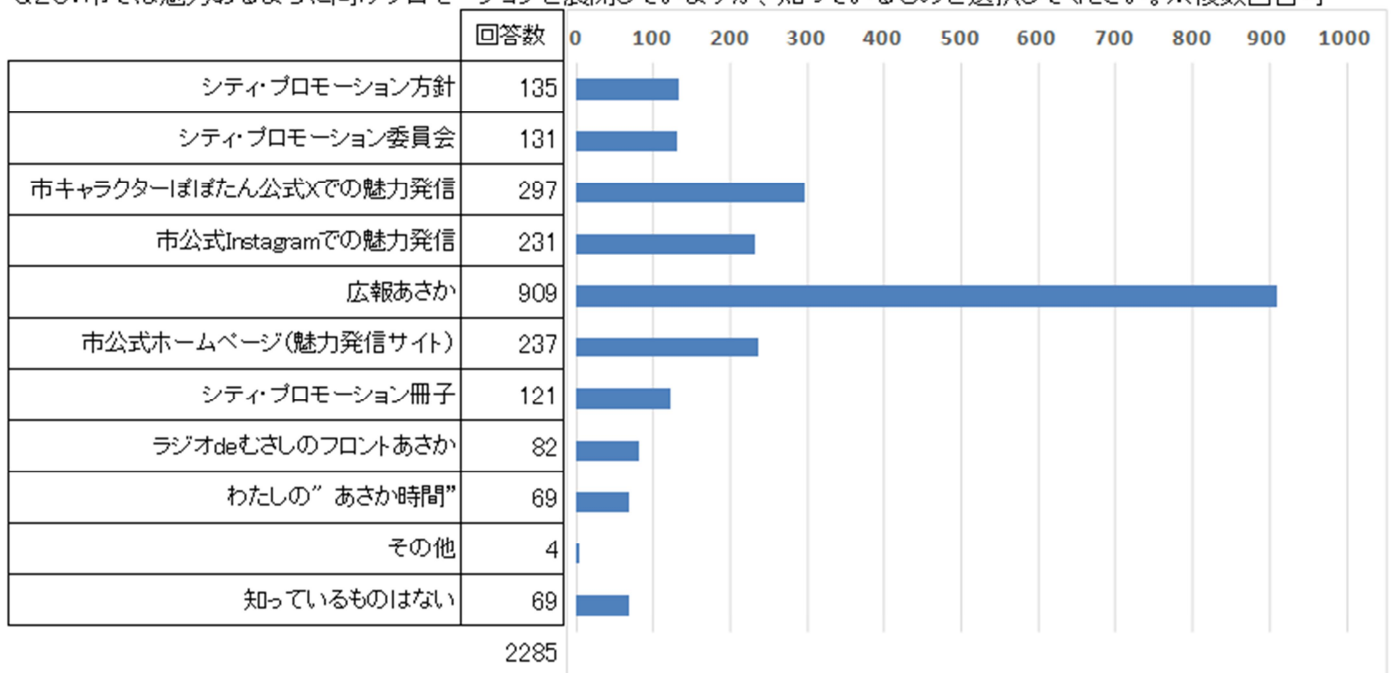
2-2-18 市のプロモーション展開として知っているもの

(新設) 設問25 「市では、魅力あるまちに向けプロモーションを展開していますが、知っているものは」の回答では、広報あさか、市キャラクターぽぼたん公式Xでの魅力発信、市公式ホームページ(魅力発信サイト)、市公式Instagramでの魅力発信が知られており、その中でも広報あさかは、全戸配布ということもあり群を抜いて知られている。

その他、朝霞市シティ・プロモーションに関する情報冊子の認知は低く、市民に行き届いていない状況である。

また、知っているものはないと回答した方が3%いること貴重な結果として認識し、誰もが何か1つでも知ってもらえるよう工夫しプロモーションを進めていく必要がある。

Q25:市では魅力あるまちに向けプロモーションを展開していますが、知っているものを選択してください。※複数回答可



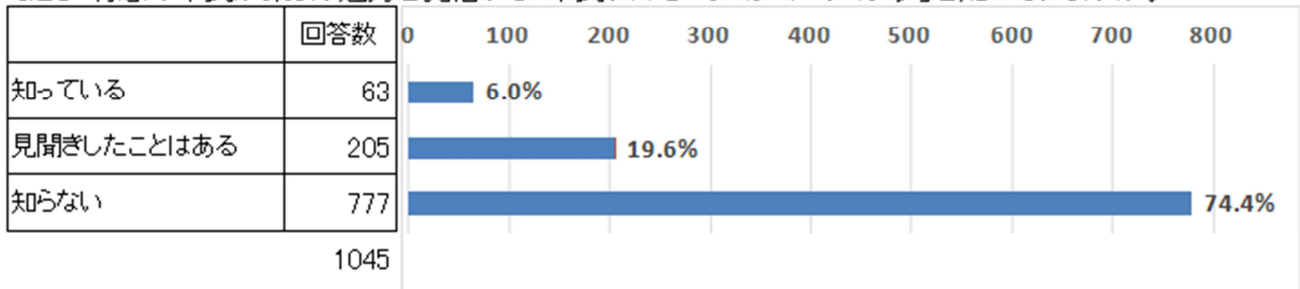
(新設) 市民プロモーションミーティングを知っているか

設問26 「有志の市民が集まり魅力を発信する市民プロモーションミーティングを知っているか」の回答では、有効回答数1,045人中、63人(6%)の方が、知っている。見聞きしたことがあると回答された方は、205人(19.6%)である。この2つを合わせると268人(25.6%)の方が少しは知っているものと捉えられる。

その半面、777人(74.4%)の方が知らないと回答されています。

こういった状況から、ミーティングメンバーのさらなる横の繋がりや効果的な朝霞の魅力情報を工夫しながら発信していくことで、朝霞の魅力を多くの方が知り、見て、考え、行動してくれるような仕組みを考える必要がある。

Q26:有志の市民が集まり魅力を発信する「市民プロモーションミーティング」を知っていますか。

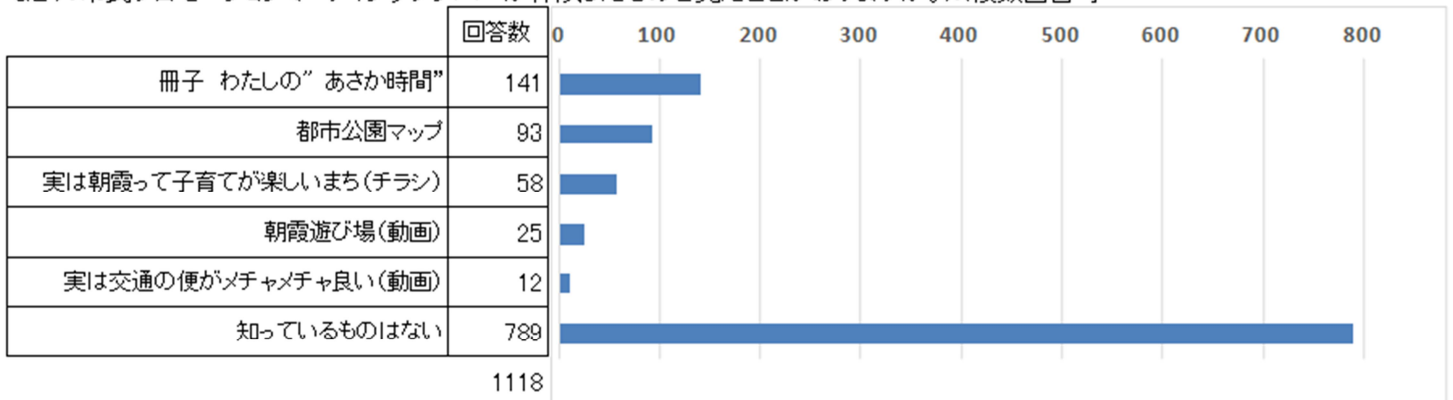


(新設) 市民プロモーションミーティングが作成した成果物について

設問27 「市民プロモーションミーティングメンバーが作成した成果物を見たことがあるか」の回答では、成果物として代表的な「冊子わたしの“あさか時間”」が、全体の12.6%と一番知られています。

知っているものはないと回答された方が、70.5%となっており、今後、シティ・プロモーションを進めていく方向性で、情報発信の工夫、周知する方法など丁寧に考えていく必要がある。

Q27:市民プロモーションミーティングメンバーが作成したのを見たことがありますか。※複数回答可



2-2-19 市制施行60周年記念事業の企画（自由記入）

（新設）設問28 「市制施行60周年に関するさまざまな企画を考えていますが、あなただったら、どのような企画をしますか」の回答は、自由記入のため、主なものを以下のとおり抜粋した。

- ・若い世代が朝霞に来たいと思えるようなイベント
- ・仮装イベント
- ・住民への還元や参加したらメリットがあるもの
- ・60年で変化したところ、変わらないところの比較展示
- ・市内事業所のものづくり風景（60社）
- ・子どもたちの未来宣言「60年後の朝霞など」
- ・60年前から現在までの子どもの写真の展示
- ・自衛隊の働く車の展
- ・みどりの植樹
- ・昔の朝霞を追体験できる企画
- ・わくわく号乗り放題企画
- ・黒目川活用したイベント
- ・今も残るお店や建物などのマップ作成
- ・タイムカプセル企画（10年後に開封）
- ・朝霞にゆかりのある著名人のトークセッション
- ・ギネスに挑戦
- ・プロジェクトマッピングの実施
- ・東洋大学とのコラボ
- ・航空写真
- ・60種のスタンプラリー

市民とともに朝霞市60周年を盛り上げる取り組みが多く寄せられた。